

文章中の-----は、「国語デジタル教科書」に収録されている資料や機能です。



「よひよしぞ、私たちの町へ」(六年)

課題解決のプロセスを視覚化することで、「書くこと」への意欲を高める

「書くこと」に対して苦手意識をもっている子どもからは、「何を書いたらよいかかわからない」「どっやって書いたらよいかかわからない」といった声が聞こえてきます。今回は、指導者用「国語デジタル教科書」(以下、デジタル教科書)に収録されているワークなどを効果的に活用することで、これらの悩みを軽減させていきます。

本単元では、事物のよさを伝えるために、効果的な構成や材料の配置、記述を考えて編集したパンフレットを作るという言語活動を設定しました。具体的には、来年度入学する新一年生の保護者に向けて、学校を紹介するパンフレットを作るという学習です。単元のスタートは、現一年生の保護者を対象に「〇〇小学校に入学する前に、知りたかったことは何か」というアンケートを実施し、新入生の保護者のニーズを探ることでした。そして、アンケート結果を分析したうえで、「新入生の保護者が、安心して子どもを〇〇小学校に通わせられるように、〇〇小学校の魅力(=楽しさ)を伝えるパンフレットを作る」という編集方針を決め、活動に取り組みました。

指導目標	
◎	パンフレットという様式の特徴を理解したうえで、集めた事柄を整理し、文章全体の構成や、目次や見出し、リード文、解説文などを工夫することができる。【書(1)ア、イ】【伝国(1)イ(キ)】
○	引用したり、写真や図を用いたりして、伝えたいことが明確になるように書くことができる。【書(1)ウ、エ、オ】
○	パンフレットについて、目的や構成の観点から助言し合うことができる。【書(1)カ】
指導計画(全12時間)	
第1次	1時 学習課題を設定し、学習計画を立てる。
第2次	2時 実際のパンフレットなどを参考にしながらパンフレットの特徴を分析し、どのようなパンフレットを作るか考える。
	3時 保護者アンケートの結果を分析し、編集方針を決め、取り上げる題材について全員で構想を練る。
	4時 取り上げる題材について、各自必要な情報を集める。
5時	全体の構成と、それぞれのページの割り付けを考える。
6時	よさを伝えるために効果的な表現を考えながら記事を書く。
7時	読み手を引きつけるための工夫について考える。
8時	よりよい表現にするために推敲する。
9時	できあがったパンフレットを読み合って、互いに助言し合う。
10時	
11時	
12時	

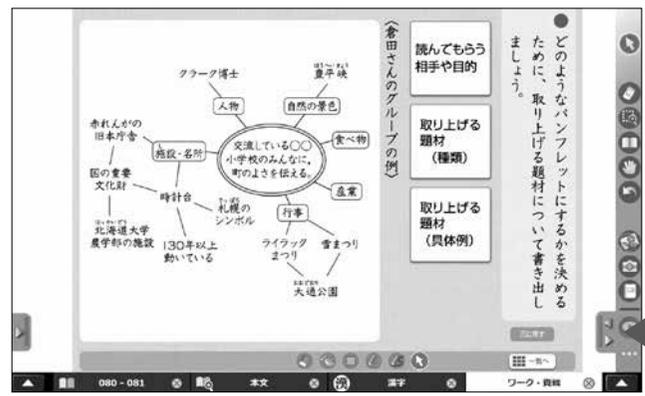
デジタル教科書の活用場面① 取り上げる題材について 構想を練る

相手意識や目的意識を踏まえながら「編集方針」を決めた後、取り上げる題材について全員で構想を練っていきます。

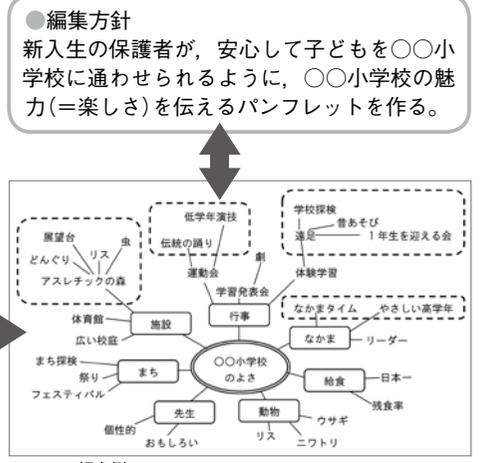
- 子どもたちの書く意欲を高めながら学習を進めていくためには、「誰に対して何のために書くのか」といった相手意識や目的意識を明確にしながら活動に取り組み、課題解決的なプロセスが単元全体に位置づけられていることが大切です。教科書は、パンフレット完成までの流れを、課題解決的なプロセスに沿って示しています。その流れに沿いながら、次のような手立てを用いることを考えました。
- 取り上げる題材について構想を練るための手立て
- 取材のしかたについて考えるための手立て
- 構成について考えるための手立て
- 読み手を引きつけるための工夫について考えるための手立て

「何を書いたらよいかかわからない」ということにならないように、このプロセスは、特に大切にしたいところです。教科書では、ブレインストーミングを取り上げ、多様な意見を出し合う方法として紹介しています。デジタル教科書には、多様な意見を書き出すためのワーク「取り上げる題材について書き出しましょう」(※1)があります。このワークには、「読んでもらう相手や目的」を「取り上げる題材(種類)」「取り上げる題材(具体例)」の二つの段階で題材を書き出す方法が示されています。これを使って、題材を具体化する手順を説明し、同様の手立てで子どもたちの意見を板書(※2)していきます。デジタル教科書の画面と板書を対応させながら進めていくことがポイントです。

ブレインストーミングを何の手立てもなしに行くと、発想は広がりますが、その後、分類・整理する際に、わかりにくくなってしまっておそれがあります。このワークのように、最初に分類・整理のしかたをおさえておくと、一つ一つの情報を関連させながら題材について書き出すことができるように、視覚的にもわかりやすく、その後の題材を決めるときに役に立ちます。



▲※1 ワーク「取り上げる題材について書き出しましょう」



▲※2 板書例



1974年生まれ。広告代理店勤務を経験した後、公立小学校教諭に。横浜市小学校国語研究会を中心に、市内の国語教育推進に取り組み。

デジタル教科書の活用場面②
取材のしかたについて考える

書き出した題材を編集方針と照らし合わせ、グループごとによりよい題材を選んでいきます。そして、分担を決め、各自必要な情報を集めます。実際にその場所に行ったり、写真を撮ったりする方法が考えられます。また、詳しい人に会って、話を聞く場合もあるでしょう。

写真を撮ったり、インタビューしたりするときに気をつけるべきポイントが、デジタル教科書のワーク(※3・4)に分かりやすく整理されています。他学年のデジタル教科書が手元にある場合は、写真の撮り方については、四年下巻の「クラブ活動リポート」を作ろう」のワークを活用することによって、アップとルーズの視点を想起させることができます。また、インタビューのしかたについては、五年の「きいて、きいて、きいてみよう」の動画を活用することによって、具体的な方法や手順を確認することができます。当該学年だけではなく、必要に応じて既習の単元で使った資料に遡ることができるのも、デジタル教科書のメリットです。

デジタル教科書の活用場面④
読み手を引きつけるための工夫について考える

それぞれのページの割り付けを考える際には、どんな内容の記事を、どのくらいの分量で、どこにレイアウトするか、表現の効果を考えながら整理していくことが大切になってきます。また、内容を踏まえながら、それぞれの記事をどんな文種(紹介文、説明文、宣伝文)で書くことが適当かも考える必要があります。そこで、教科書P81の「ページの割り付け例」をデジタル教科書(教科書画面)で全員に提示し、割り付けのイメージを共有したうえで、実際の割り付けを考えていきます。デジタル教科書を使って説明する際、見出しや本文、写真などの位置を確認しながら進めていくことで、子どもたちは具体的なイメージをもつことができます。

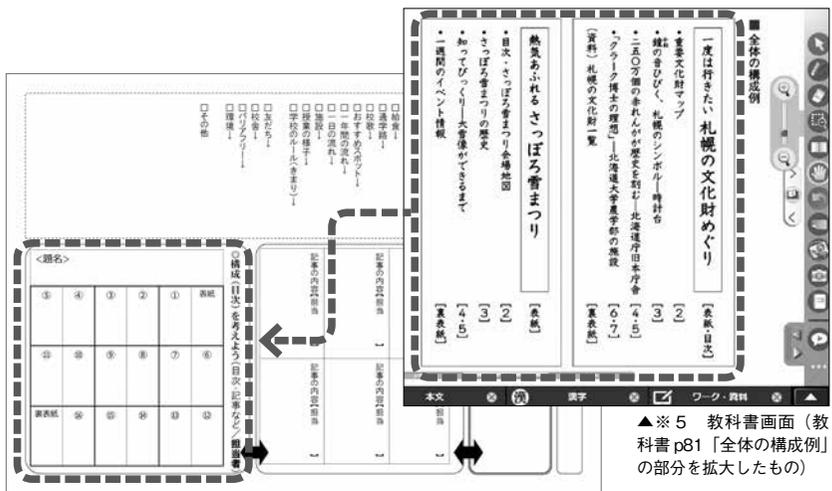
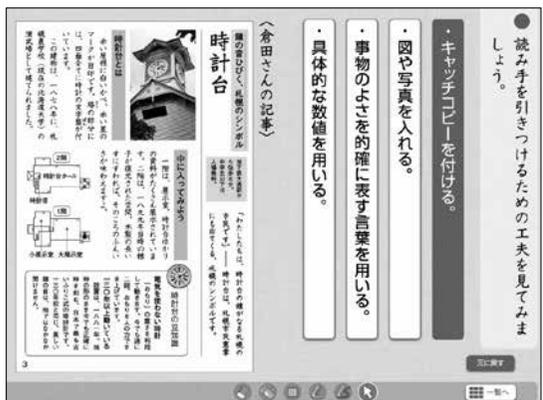
構成が決まったら、実際に記事を書いていきます。ここでは、よさを伝えるための効果的な表現について考えます。デジタル教科書のワーク「読み手を引きつけるための工夫を見てください」(※7)を使い、どんな工夫があるのか、子



デジタル教科書の活用場面③
構成について考える

選定した題材について、必要な情報を集めたら、集めた情報を分類・整理していきます。同時に、伝えたい内容の優先

どもたちと考えていきます。このワークでは、「キャッチコピーを付ける」「図や写真を入れる」「事物のよさを的確に表す言葉を用いる」という四つの工夫を取り上げ、分かりやすく例示しています。一つ一つの工夫について話し合っていきます。また、教師が作成した見本も提示し、四つの工夫がどこに生かされているかについて検討することで、より具体的に表現の効果を実感することができます。自分の記述をどう工夫していくかについてイメージをもつことができます。



順位を考え、目次へと反映させていきます。教科書P81の「全体の構成例」をデジタル教科書(教科書画面)で提示し(※5)、それを参考にしながら、魅力を伝えるためにはどんな目次の構成がよいかを考え、ワークシート①(※6)に整理していきます。

デジタル教科書を活用して

子どもたちの「書くこと」への苦手意識を軽減させるためには、課題解決的なプロセスを丁寧におさなから学習を進めていくことが大切だと考えています。子どもたちが、相手意識や目的意識を明確にもてるようにするとともに、課題解決のプロセスを自覚できるようにするための手立てとして、例えば、学習計画表を掲示することが挙げられます。これにより、学習全体の見通しをもつことができたり、今行っている学習がプロセスのどこに位置しているのかがわかったりします。

今回、教科書に示されている課題解決的なプロセスを、デジタル教科書で視覚的に示すことで、子どもたちは常にプロセスを意識したり、次の学習の見通しをもったりしながら、学習に取り組むことができました。また、デジタル教科書に収録されているワークや教科書画面を効果的に活用することで、課題解決的なプロセスを意識しながら、構成を考えたり、記述の工夫について考えたりすることができ、結果として、単元を通して、書く意欲を高めながら学習をすることができました。